

多古町地震ハザードマップ

保存版

日本は世界でも有数の地震国であり、千葉県では県南端の野島崎付近を震源とする元禄関東地震(1703年)、相模湾沖を震源とする大正12年の関東地震等により甚大な被害を受けてきました。近年では、平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震、平成19年の新潟県中越沖地震等が発生しています。平成23年3月には東北地方太平洋沖地震が起こり、さらに東海沖地震の発生も懸念されており、千葉県周辺で大地震が発生する可能性が高まっています。

過去の大地震による人的被害のうち、建物や家具等による死者が死亡者全体の多数を占めており、住宅の耐震化が急務となっています。地震による被害を最小限にとどめるためには、住宅等の耐震改修を進めるなど日頃からの地震に対する備えが重要となります。

本町では、「多古町地震ハザードマップ」として、町内各地で想定される最大震度での建物全壊の危険度を示した「地域危険度マップ」、最大震度を示した「揺れやすさマップ」及び地盤の液状化の可能性を示した「液状化危険度マップ」を作成しました。

町民の皆さんが、今後、想定される大地震に対応していただけるよう、自宅及びその周辺の地震対策に「多古町地震ハザードマップ」をご活用いただければと考えています。

- 平成24年3月
- 多古町総務課交通防災係
電話:0479-76-2611
- 多古町のホームページ <http://www.town.tako.chiba.jp/>
 - 千葉県防災ポータルサイト <http://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/portal/>
 - 国土交通省 防災情報提供センター <http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>
 - 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

地域危険度マップ

「地域危険度マップ」とは

大字ごとに分布する建物の建築年代や構造を集計し、その割合と50mメッシュ単位の揺れやすさをもとに全壊すると予想される建物の割合を表示したものです。危険度の数値が大きくなるほど地域で被害を受ける建物の割合が大きくなります。

地域危険度マップは、地震防災マップ作成技術資料(内閣府、平成17年3月)を参考にして、次の手順で作成しています。

揺れやすさマップ
＜地域の揺れやすさ＞
50mメッシュごとの揺れやすさ


➡

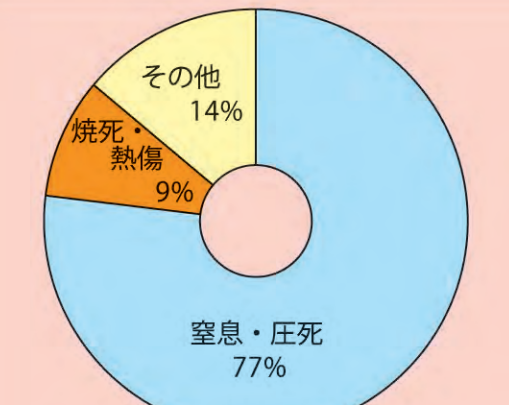
地域危険度マップ
＜建物被害の危険度＞
50mメッシュごとの建物が全壊すると予想される割合

地域ごとに建築年代や構造を考慮した建物分布

恐ろしい地震被害

地震による死亡の原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約80%を占めています。





『阪神・淡路大震災調査報告 総集編』
阪神・淡路大震災調査報告編集委員会
(2000) 厚生省大臣官房統計情報部
『人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況』(1995.12) より作成

木造建物被害の例 (平成19年7月新潟県中越沖地震)
木造建物被害例

阪神・淡路大震災の死亡原因

木造建物耐震化チェックポイント

ご自宅の耐震性について確認してみましょう。

- ① 建てたのは昭和56年(1981年)5月以前である。
- ② 過去に浸水、火災などに見舞われたことがある。
- ③ 壁や基礎にひび割れがある、傾いているのがわかるなど老朽化している。
- ④ 建物の平面の形状や、偏って大きな窓があるなど耐震性に関わる問題がある。


※ひとつでも当てはまれば、耐震診断について建築士などに相談してみましょう。

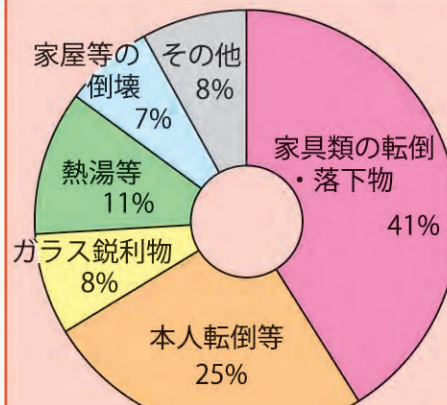
あなたの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の一部、または全部の耐震化が急務です。

家具・家電の耐震対策も忘れずに!

住宅の倒壊を免れても、テレビ、電子レンジなどが飛び、ガラスの破片は一瞬にして凶器となり大けがの原因となります。

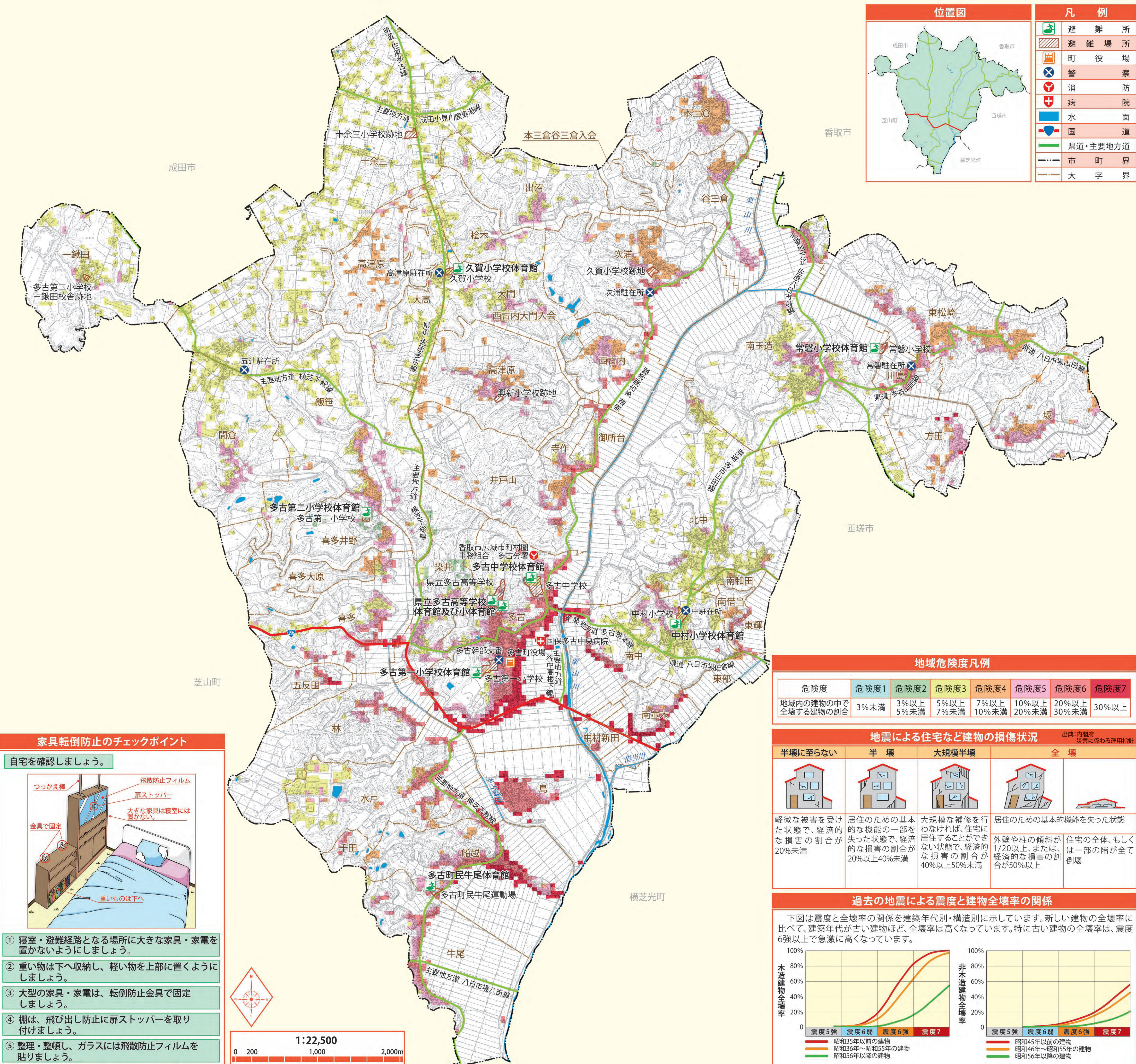
新潟県中越地震によるケガの40%以上が家具の転倒・落下と言われています。また、ケガをすることでその後の避難行動に大きな支障が生じます。





『新潟県中越地震における人的被害に関する現地調査結果』東京都消防庁(2004)より作成

家具の転倒(阪神・淡路大震災写真より) 新潟県中越地震によるケガの原因



位置図

凡例

- 避難所
- 避難場所
- 町役場
- 警察
- 消防
- 病院
- 水面
- 国道
- 県道・主要地方道
- 市町界
- 大字界

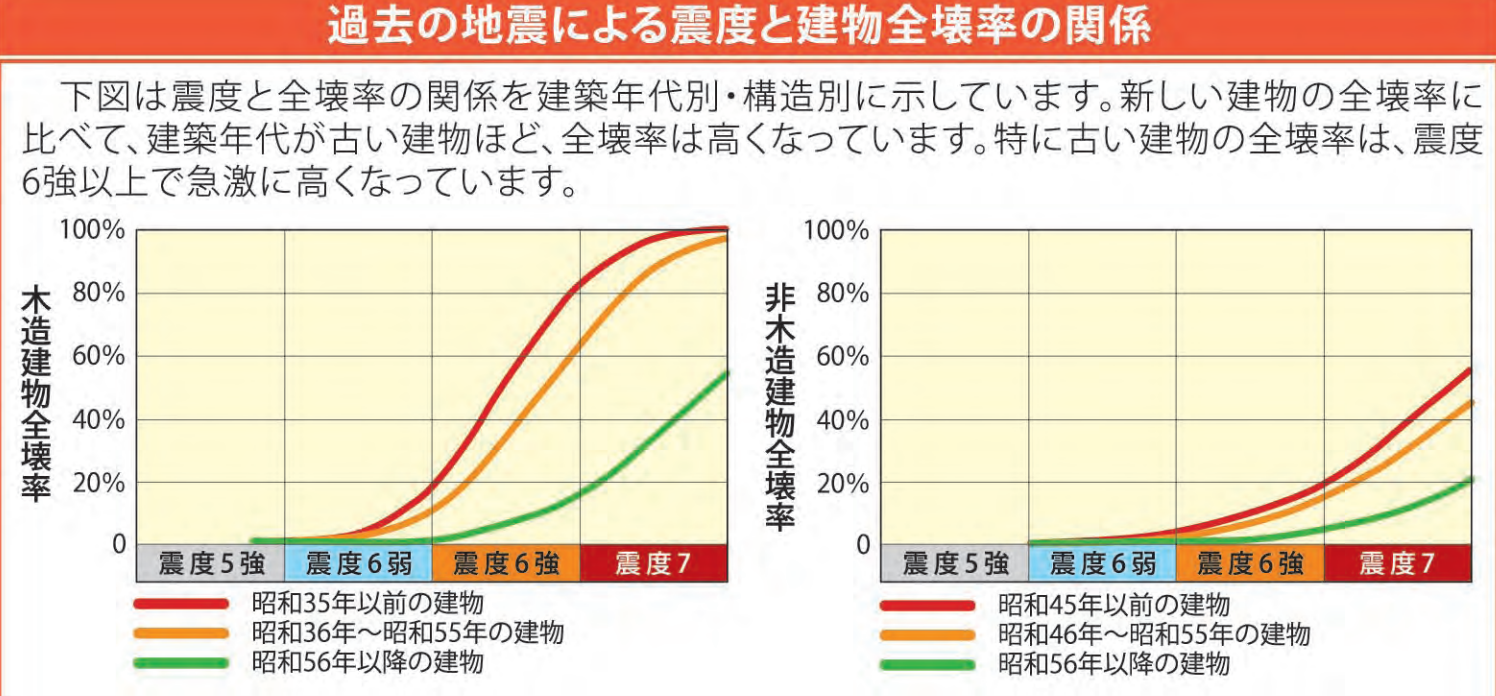
地域危険度凡例

危険度	危険度1	危険度2	危険度3	危険度4	危険度5	危険度6	危険度7
地域内の建物の中で全壊する建物の割合	3%未満	3%以上5%未満	5%以上7%未満	7%以上10%未満	10%以上20%未満	20%以上30%未満	30%以上

地震による住宅など建物の損傷状況

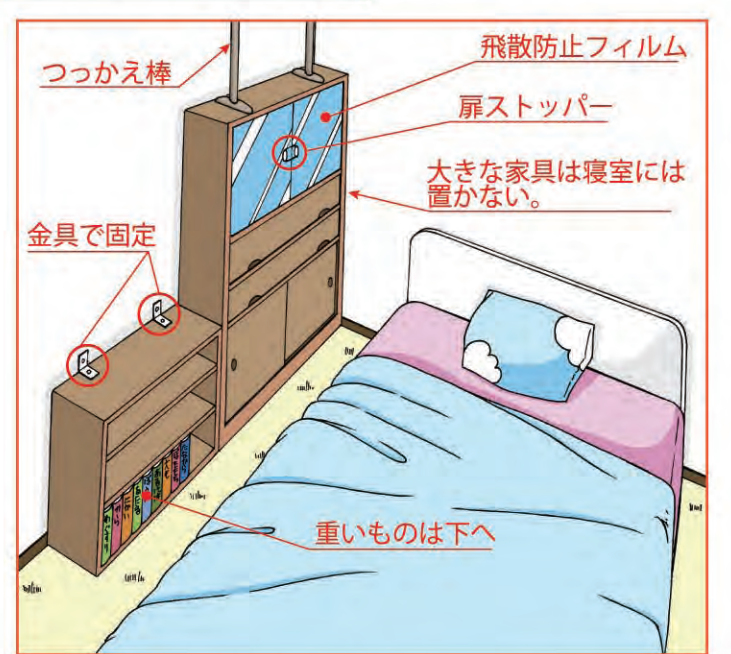
出典:内閣府 災害に係わる運用指針

半壊に至らない	半壊	大規模半壊	全壊
軽微な被害を受けた状態で、経済的な損害の割合が20%未満	居住のための基本的な機能の一部を失った状態で、経済的な損害の割合が20%以上40%未満	大規模な補修を行わなければならない状態の建物で居住することができない状態で、経済的な損害の割合が40%以上50%未満	居住のための基本的な機能を失った状態で、外壁や柱の傾斜が1/20以上、または、経済的な損害の割合が50%以上
			住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊



家具転倒防止のチェックポイント

自宅を確認しましょう。



- ① 寝室・避難経路となる場所に大きな家具・家電を置かないようにしましょう。
- ② 重い物は下へ収納し、軽い物を上部に置くようにしましょう。
- ③ 大型の家具・家電は、転倒防止金具で固定しましょう。
- ④ 棚は、飛び出し防止に扉ストッパーを取り付けましょう。
- ⑤ 整理・整頓し、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

